

薬の知識

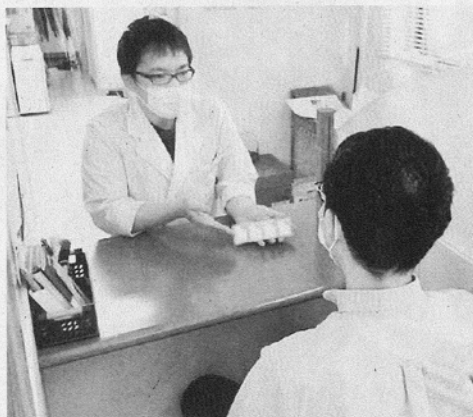
冬はかぜをひきやすく、さらに寒さが和らぐと春先に花粉症シーズンが到来します。そのような時に、症状に悩まされて鼻炎薬やかぜ薬を薬局やドラッグストアで購入したり、置き薬を使用されたりする方も多いのではないのでしょうか。

身近で手軽に購入できる市販薬ですが、認知症やフレイル（加齢によって心と体の働きが弱くなった状態）の高齢者が服用する際に注意が必要なものもあります。

市販されているかぜ薬や鼻炎薬、一部のせき止め薬や酔い止め薬にはアレルギー症状を抑える抗アレルギー薬を含むものが多く存在します。抗アレルギー薬は、鼻水やくしゃみを抑えることができる大変有用なものです。これらの中には、アレルギー症状を和らげる一方で、脳

意識障害起こす恐れも

39. 認知症と市販薬



市販薬を購入する際も、薬剤師に気軽に相談を

内にある神経の働きに影響を与えるものもあります。

そのため、認知症の方がこれらの市販薬を服用することで認知機能の低下や意識障害、せん妄を引き起こす可能性があるものもあります。服用が短期間の場合は服用中止後に症状は改善すると言われています。

ただし、ここで注意していただきたい点は「市販のかぜ薬や鼻炎薬を飲んではいけない」ということではなく、「市販薬の中には注意が必要なものがあ

る」ということです。また「注

意が必要な抗アレルギー薬の中にも比較的安全に服用できるものがある」という点も理解していただきたい点です。

高齢者が市販薬を購入される際は、処方されている薬との飲み合わせや、薬を体の中で処理する代謝機能の低下など、注意する点は他にもあります。手軽に購入できる市販薬を安全に安心して服用していただけるよう、医師やかかりつけ薬剤師に気軽に相談ください。

（鹿児島県薬剤師会学術研修委員会・中村宏洋）

「令和3年1月12日（火）掲載（39. 認知症と市販薬）」